

# 平成29年度の小学校国語科の問題点

CHECK!!



## 適切な言語活動の設定ができていない

- 付きたい力を付けるのに適切とは言えない言語活動
- 教材の特性や活動の必然性を考慮していない言語活動
- 活動の意義を子どもたちに理解させない、または見通しを持たせないまま進める言語活動

CHECK!!



## より具体的な評価規準の設定ができていない

- 評価規準が具体的でないため、児童の状況の見取りが不十分
  - 指導の充実につながらない
  - 支援を要する児童の見取りが適切でなく、十分な支援ができていない



# 平成30年度の国語科の改善のポイント

POINT 1

## 適切な言語活動とその充実が図られる単元設定

- ① 付けたい力を付けるにふさわしい言語活動であるか
- ② 多様な図書資料等が有効に活用されているか
- ③ 既習事項(または知識・技能)を活用する言語活動であるか
- ④ ③のために知識・技能の確実な定着を図っているか

POINT 2

## 児童の主体的な学びを促す「めあて」等の設定と指導に生かすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ①適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか、また、国語の学習として適切な「振り返り」となっているか
- ②指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか
- ③「B おおむね満足できる」状況が具体的に想定され、それを判断する場面や方法は適切であるか
- ④「C 努力を要する状況」の児童への指導や支援は行われているか、また有効であるか

## 参考資料

# 国語科の授業を構想するポイント

### ① 指導事項(資質・能力)を設定

→当該単元で付けたい力を明確にする

### ② ①を指導する上で、適切な言語活動を設定

→設定した言語活動は、児童生徒に①を指導する上でどのような効果を果たすのかを考える

➤ プラス1の工夫(創意工夫)

### ③ ①の内容について、適切に評価する

→①の内容が、児童生徒に身に付いたかどうかをどのように判断し、評価するかを具体的に考える